

2017年4月12日

音羽電機工業株式会社

SPD の設置方法について

(1) 電源用 SPD について

SPD は、動作時の接地電位上昇による電位差の負荷への影響を避けるために、SPD と負荷とを共通一点接地とすることが使用上の原則となります。

従って、図 1 のように SPD の専用接地を設けるのではなく、図 2 のように、SPD とその二次側にある保護対象負荷の接地を共通とすることが望ましい形となります。

(2) 接地間用 SPD について

接地極間に発生する電位差を解消するために、接地端子間にも SPD を設置する用法もございます。

SPD は、平常時は絶縁抵抗体、落雷時は導電体へ変化する半導体特性があり、接地極間に SPD を設置することにより、平常時は接地極の独立（単独）を守り、落雷時は等電位化を図ることが可能となります。

例えば、接地種別が ED と E (ELCB) の二種類ある場合は

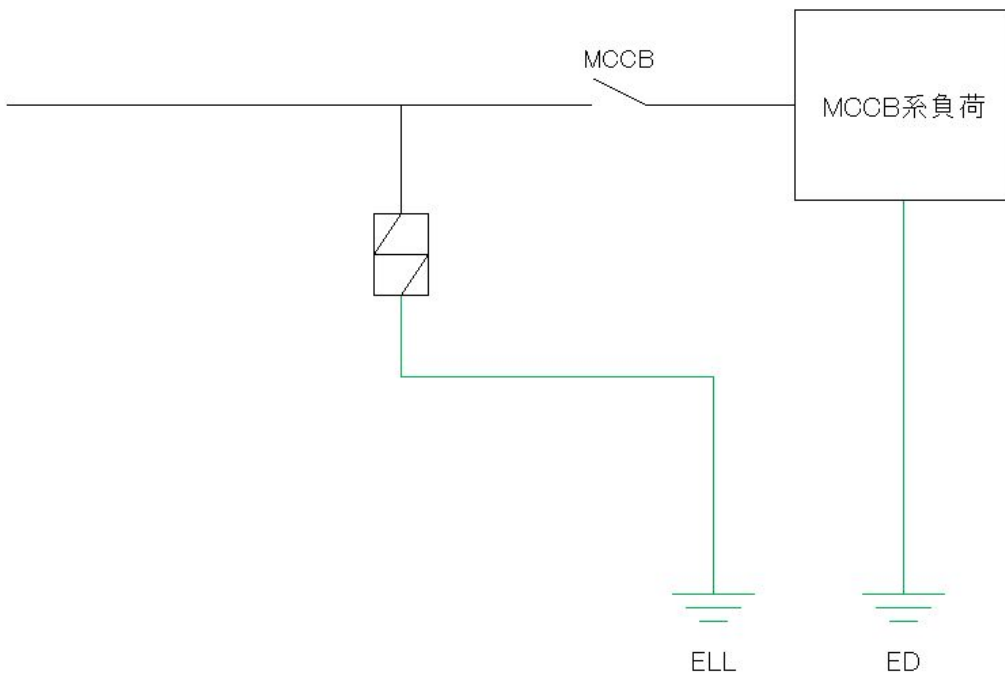
図 3 のように ED と E (ELCB) 間に SPD を設置してください。

(3) SPD を設置できない箇所について

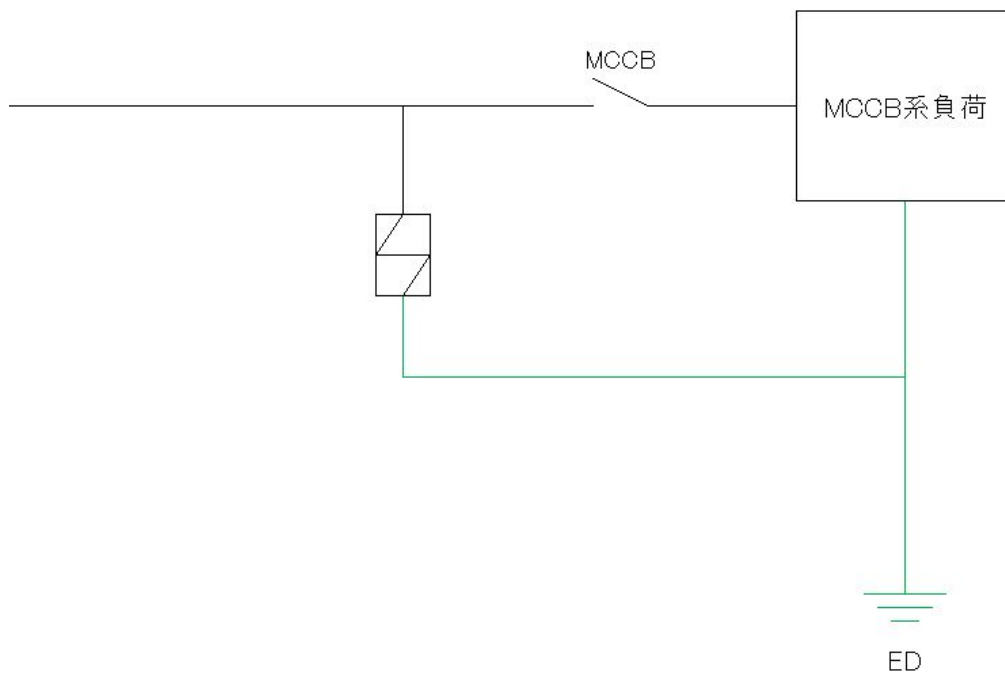
図 4 の×印箇所のように、接地幹線上に直列に SPD を設置することはできません。

(2) で説明した通り、SPD は、平常時は絶縁抵抗体であるため、その接地線は接地されていない状態となってしまいます。

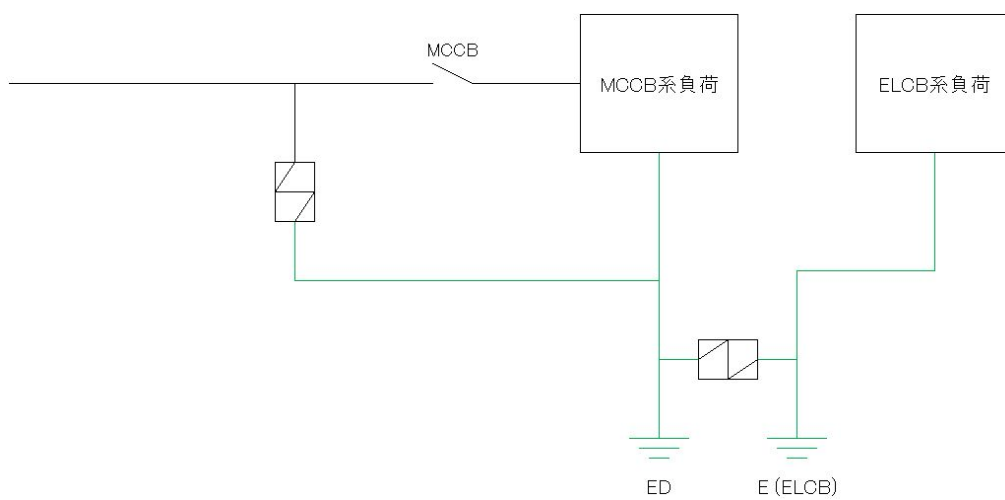
接地幹線上に直列に SPD が設置されている場合は、取り外していただくようお願いいたします。



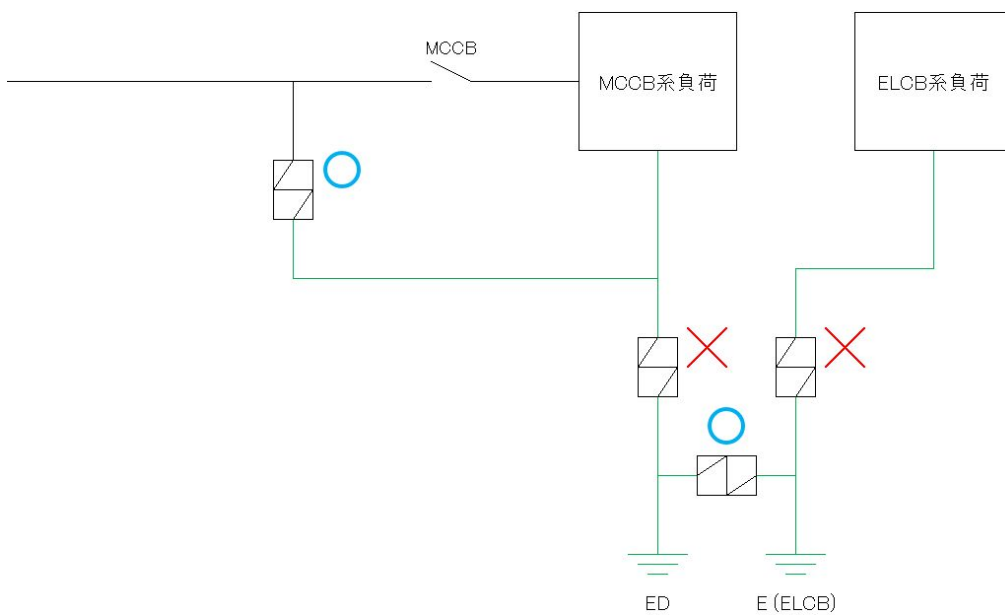
(図 1)



(図 2)



(图 3)



(图 4)

以上